

社会福祉法人 上越老人福祉協会

令和元年度 事業実施状況報告

役員会資料

(概要版)

社会福祉法人 上越老人福祉協会

目次

1. 全体評価	P 1
(1) 経営改善取組の状況	
(2) 法人管理部	
2. 各事業の報告	
(1) いなほ園グループ 事業活動	P 6
(2) 新光園グループ	8
(3) 高田の郷グループ	10
添付（資料集）	

1. 全体評価

(1) 経営改善計画の継続した取り組み

①法人全体の状況

平成29年度から取組む「法人経営改善計画」の成果により、当期資金収支差額45,599,159円となり2期連続でプラス決算になった。

事業活動計算書では法人全体の収益は2,303,888,649円 前年比+1.76% (但し、処遇改善加算の区分変更、特定処遇改善加算算定による収益分を含む)、また費用については2,231,368,612円となり当期活動増減差額78,585,023円のプラス決算であった。

なお、主な要因は主幹事業がいずれも高利用率により安定した収入が確保できたことと、介護度 up や新たな加算算定により利用単価が上昇したことと、水道光熱費・燃料費の減少、電力会社や紙おむつ納入業者の見直しによる経費削減のためである。

※参考（資金収支決算額）	H28年度	△51,713千円
	H29年度	△35,065千円
	H30年度	59,656千円
	R1年度	45,599千円

②各事業の状況

特養、老健の平均利用率はいずれも高率を維持しサービス活動増減差額は以下の通り順調に推移した。ただし高田の郷については、職員補充12,000千円、医薬品2,750千円、屋根修繕2,310千円等の支出のため費用増となり対前年比では大きくマイナスとなった。

施設名	利用率	サービス増減差額	前年比
いなほ園	98.1	31,483千円	1,089千円
新光園	98.5	21,122千円	△4,092千円
みずほ園	98.5	9,279千円	5,941千円
高田の郷	97.2	26,406千円	△19,709千円

通所、通りハは新光園が利用率、収益とも大きく伸ばすも、いなほ園の利用率は伸び悩む。それでも3事業ともに新たな加算算定や人員体制の見直しなどによりいずれもサービス活動増減差額はプラスとなった。

施設名	利用率	サービス増減差額	前年比
いなほ園通所	75.4	1,214千円	1,414千円
新光園通所	92.7	14,957千円	6,212千円
高田の郷通りハ	81.2	9,085千円	3,299千円

グループホームと小規模多機能居宅介護施設については一定の利用率は維持したが、小規模事業の収益性の低さと小規模多機能型施設の報酬単価が低い事からサービス活動増減差額は少額もしくはマイナスの結果となった。また、いずれの事業所においても前年度の職員の欠員補充をおこなったことから人件費が増加したため、前年対比においてもマイナスの状況となった。なお、これについては4月～グループホームの食費料金改定と小規模多機能型の契約定員の増などにより改善に取り組む。

施設名	利用率	サービス増減差額	前年比
敬 寿	97.6	△6,801 千円	△4,840 千円
なかよし寿の家	98.3	892 千円	△4,573 千円
宝寿の家	98.7	△3,823 千円	△4,032 千円
百寿の家	99.4	4,807 千円	△2,198 千円
本町楽寿の家	91.5	394 千円	△5,533 千円
光寿の家	93.9	△6,342 千円	△1,802 千円

その他、軽費老人ホームは順調に推移したが、居宅介護支援事業所は給付管理の目標比△271 件（1 担当あたり△5～6 件／月）によりサービス活動増減差額は△4,090 千円（前年比△4,278 千円）のマイナスの決算となる。今年度は営業強化と担当個々の目標設定及び管理者の評価により改善に取り組む。

（2）サービスの質・量の評価、改善及び新たな事業の検討

①職員研修計画のリニューアル設計と研修センターの活動

職員研修及び（新潟県委託）認知症介護者研修、（新潟県指定）喀痰吸引研修を予定通り実施した。また、上越保健医療福祉専門学校長と協同しより専門性の向上につながる令和2年度の法人研修計画を作成した。

②いなほ園専用棟の移転といなほ園ショートステイの改修の準備状況

新潟県及び上越市と事前協議を重ね、計画の概要とスケジュール化が終了した。今後は令和3年度の移転に向けて改修工事の諸準備と新たなサービス体制の構築について、いなほ園と協力により準備する。なお、いなほ園ショートステイの廃止については先回の理事会に報告済み。

（3）人材確保・定着の取り組み

①人材確保の取組

就職説明会の積極的な参加や職場説明会の開催などの効果により 3 名の中途者を採用（介護 2、調理 1）した。また、新年度採用者 7 名（副園長 1、介護 3、看護 2、調理 1）のうち、介護福祉士 3 名については上越保健医療福祉専門学校との連携を強めた成果によるもの。

②新人事制度の導入準備

導入プロジェクトにおいて1年を掛けて制度設計、内容の具体化、規程整理をおこない完了した。職員の理解については（9月）管理監督（10月）一般職を対象に制度全体の説明、2月に全職員を対象に具体的な内容を説明した（計7回）。その都度、アンケート等により意見交換をおこない丁寧な理解に努めた。

（4）情報発信・情報収集

Twitterの運用を開始した。職員向けのポスターを作成したが投稿内容が乏しいためか登録数が伸び悩んだ。

クックパッド【いなほSネットのキッチン】は在宅の介護者より好評を得ており、アクセス数は週2,000回を数えユーザーは定着している。

2. 法人管理部会

（1）総務部

①職員研修

計画に基づいて全職員を対象に研修を実施した。【以下：表】

実施日	研修名・対象者・参加者	概要
5月24日	監督職研修 49名 監督職	「人間力・想像力・鈍感力」 中里事務局長
6月11日 18日	中堅職員研修Ⅰ 70名 初任者研修受講後経験5年未満	「働き方改革と習慣の作り方」 市村事務長
7月2日 16日	中堅職員研修Ⅱ 90名 経験5年以上11年未満の一般職員	「チームケアとリーダーシップについて」 金子園長
9月3日 17日	中堅職員研修Ⅲ 85名 経験11年以上の一般職員	「伝える・伝わりと考えるみよう」 村松園長
6月14日	【特別研修】1 法人職員（法人外含）87名	「社会福祉法人におけるリスクマネジメント」 新潟県老施協 高橋会長
9月20日	【特別研修】2 法人管理監督職員 40名	「介護人材政策の現状」 介護人材政策研究所 天野 尊明 様

その他の研修【11/6 認知症研修 講師 家族の会より 75名参加】

地域貢献活動【8/23 直江津海岸清掃 51名参加】

②諸制度への対応

働き方改革関連法の改正に伴い、年次有給休暇取得の推進及び適正な管理について具体化・全体化した。

(2) 事業部

毎月、法人各事業の連携強化とサービスの標準化のため、事業所代表者会議を開催した。特に利用率の安定と新規利用者の確保が課題であった通所事業については、それに特化した検討会議も併せて開催した。それにより人員体制の見直しや記録時間の削減など業務の効率化をおこなうことができた。

事業部担当の研修、会議は以下のとおりである。

事業名		
新潟県認知症介護研修事業	①5月28日～7月26日	第1回実践者研修 46名
	②7月30日～9月27日	第2回実践者研修 48名
	③10月1日～11月29日	第3回実践者研修 29名
	9月18日、19日	小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 20名
	11月1日	認知症介護基礎研修 20名
	12月5日、6日	認知症対応型サービス事業管理 20名
喀痰吸引等研修事業	7月17日～8月21日	修了者 27名
	11月20日～12月24日	終了者 28名
法人苦情解決委員会	5月21日	法人第三者委員と担当者が苦情6件について意見交換
事業所代表者会議	毎月	事業所代表者と事務局長、事業部が諸課題の検討

(3) 情報部

①情報発信

ホームページの投稿をスケジュール化し取組む。また、Twitterの新規導入により法人情報の発信に努めた。

Twitterの運用実績、クックパッドのアクセス数は以下の通り。

ツール	年間投稿数	アクセス数	特記
職員ブログ	159		
Twitter(10月～)	53	フォロワー(23) いいね(71)	
クックパッド	13	年間: 104,333 月平均: 8494	人気検索月間トップ1 (1回) 人気検索月間トップ10 (3回)

②情報管理

法人職員の情報の共有度合いについてアンケートを実施した。結果、60%の職員が現在の取組に満足との回答を得た。

さらに緊急通報システムを取り入れ、法人情報の迅速性と公平性を高めていく。

(4) 財務部

①新たな収入、収支目標を作成し、実績の取りまとめと分析を行った。また経費削減の取り組みを継続その一つとして電気料契約の見直しを行った。

②新人事制度の制度設計のためのシミュレーションや試算資料を作成し、連携した取り組みを行った。

③資金計画の見直しを行ったが、これまで検討が進まなかった法人全体の設備更新計画を令和2年度も引き続き検討する。

2. 各事業（グループ）の報告

(1) いなほ園グループ事業実施状況

特 養	<p>(利用率) 98.1% (前年) 98.3%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年比△0.2%、入院者数の10件(昨年38件→48件)増加と入退所に伴うロスにより空床が発生、利用率に影響した。(昨年887日→920日)。 ・なお、空床についてはショートステイ(290日)を活用したことで利用率の低下を最小限にとどめた。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額31,483千円(昨年比1,089千円) ・利用率は低下したが要介護度(3.9→4.0)の上昇、光熱水費や衛生用品費の削減(△2,277千円)によりほぼ昨年と同額になった。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者と地域住民の交流の機会として「カフェいなほ」を開催した。地域住民の参加は少ないが、利用者と家族の交流の機会となり毎回40名ほどが参加した。
通 所	<p>(利用率) 75.4% (前年) 79.2%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者は27名あったが、中止者が31名とそれを上回り利用率は△3.8%となった。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額1,214千円(昨年比1,414千円) ・人員体制の見直しをおこない人件費の削減(△1,400千円)につなげた。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上期の新規利用者は低迷したが、下期に営業強化等の経営改善の取り組みの成果により月3～4名の新規利用者を獲得した。
み の り の 家	<p>(利用率) 100% (前年) 100%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間通して入退去が少なく(入居・退去各1名)高利用率を維持した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額1,466千円(昨年比390千円) <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内外の環境整備(ボランティア)の参加を促し、生きがいと自立生活の動機づけを支援した。
米 岡 の 郷	<p>【みずほ園】(利用率) 98.5% (前年) 98.8%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年比△0.3%、入院者数4名、その内1名については長期間の入院となったがショートステイの活用により影響を最小限にとどめた。

	<p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 9,279 千円（昨年比 5,941 千円） ・利用率は低下したが、介護度の上昇（4.0→4.2）と管理者の兼務による人件費の圧縮、事業費削減（△468 千円）により 5,952 千円増となった。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母体施設いなほ園の各種委員会や会議等の機会の活用により専門性の向上を図り、認知症ケアや重度化する医療ニーズに対応した。 <p>【光寿の家】（利用率）93.9%（前年）85.8%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年比 8.1%改善。営業活動の成果により新規利用者 12 名を確保した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額△6,342 千円（昨年比△1,802 千円） ・利用率は上昇したが欠員の補充により人件費増となる。令和 2 年度は契約者数の増加（25 名→29 名）により改善を図る。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉計画策定委員会や防災訓練に参加し相互交流の機会とした。
な か よ し 寿 の 家	<p>（利用率）98.3%（前年）99.4%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年比△1.1%、入院後そのまま退所となるケースが利用率に影響した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 892 千円（前年度比△4,573 千円） ・欠員補充と正規職員への切り替えにより昨年度より人件費増となる。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験の受け入れや地域サロンへの参加、町内会への広報紙発行等積極的に交流の機会を確保した。
宝 寿 の 家	<p>（利用率）98.7%（前年）98.2%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度比 0.5%改善、入退所や入院があったが速やかに入所することが出来たため利用率への影響は最小限にとどめた。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額△3,823 千円（昨年度比△4,032 千円） ・臨時職員から正職員への切り替え、パート職員の雇用により人件費が増加した。小規模事業所の採算性の低さを露呈する結果となった。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人内 GH の待機者共通管理のほか、職員の交換研修をおこない個人及び事業所の振り返りの機会とした。

(2) 新光園グループ事業実施状況

<p>特 養</p>	<p>(利用率) 98.5% (前年) 98.8%</p> <p>① 利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退所 23 件と年間を通して頻回であった。冬季以降については空床発生を見越した管理と速やかな対処で空床期間を 4 日程度にとどめ、ほぼ前年並みの利用率を維持できた。 <p>② 収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 21,122 千円 (前年比△4,092 千円) ・介護度 4.0 (前年 4.0) ・褥瘡マネジメント加算を新規算定開始。再入所時栄養連携加算も可能な限り対応して収入増加に取り組んだ。 <p>③ サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実地指導の講評からサービス管理委員会を中心にマニュアルの管理方法を変更した。 ・家族懇談会及び満足度調査を反映し、家族の意向を尊重した居室内の環境改善を行った。 ・鼻腔内吸引に対応できる職員を育成し重度化対応を手厚くした。
<p>通 所</p>	<p>(利用率) 92.7% (前年) 83.9%</p> <p>① 利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規 31 名、終了 27 名 ・軽度者の利用を柔軟に調整して 100 名以上の登録者数を確保した。 ・3 名/日のキャンセルを見込み、予約時 100% 越えを目標に取り組んだ。 ・振替利用を積極的に働きかけ 8.8% 改善した。 <p>② 収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 14,957 千円 (前年比 6,212 千円増) ・介護度 2.0 (前年 1.9) ・利用率向上に係る給食費、消耗品、寝具などで約 800 千円増加。経年劣化に伴う修繕費で約 500 千円増加。 <p>③ サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用時の状態変化を記録し積極的な変更申請依頼につなげた。 ・第三者評価受審であがった清潔保持、プライバシー保護について改善に取り組んだ。 ・ADL 維持等加算の調査に年間を通して取り組み次年度からの算定につなげた。
<p>G H 百 寿</p>	<p>(利用率) 99.4% (前年) 98.0%</p> <p>① 利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退所後の支援を継続し 8 月～9 月にかけて延べ 34 日間の空床が発生した。しかしそれ以降は入退所なく推移し前年比 1.4% 改善した。

	<p>② 収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 4,807 千円（前年比△2,198 千円） ・介護度 2.2（前年 2.3） ・欠員の充足に伴い人件費が増加した。 <p>③ サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人事業所の交換研修及び上越市職員の施設実習を通じて基本サービスの点検と改善を行った。
<p>ケアハウス上越</p>	<p>（利用率） 99.2% （前年） 98.8%</p> <p>① 利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退所各 6 名。待機者の増加に伴い入所判定会議の内容が充実した。 ・上位者へは早めの情報提供を行い、退居発生後の新入所は目標とする 2 週間を切る期間で達成できた。 <p>② 収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額△1,057 千円（前年比△1,745 千円） ・人件費は職員の異動に伴い前年比 1,919 千円増加した。 <p>③ サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提携薬局の居宅療養管理指導を取り入れたことにより、入居者の薬の管理状況と健康状態が共有され、生活継続への対応が手厚く行えた。

(3) 高田の郷グループ事業実施状況

<p>入所 短期含む</p>	<p>(利用率) 97.2% (前年) 97.6% 前年度比△0.4%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・突発的な入院等により月毎に上下あったが、高利用率を維持できた。 ・入退所数は前年度比 20 件減少した。加算に必要な回転率は確保できた。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 26,406 千円 (前年比△19,709 千円) ・介護度 2.9 (前年度 2.9) ・高利用率を維持し、リハビリ関係の加算算定により収入が増加した。 ・人件費と修繕費、医薬品費が増加、光熱水費、除雪費は減少した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングの時間・実施方法を一部変更した。加えて会議録等の閲覧方法を PC 内で行うよう整理し、情報共有の強化に繋がった。 ・各専門職の強みを再確認し、一元化することで全体の強化を図った。 ・カーテンやベッドを刷新し、生活環境の快適化・適正化が進められた。
<p>通所 リハ</p>	<p>(利用率) 81.2% (前年) 80.5% 前年度比 0.7%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者 31 名 (前年 28 名)、終了者も 31 名 (前年 23 名)。 連休等に自己都合によるキャンセルが多く利用率に大きく影響した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 9,085 千円 (前年比 3,299 千円) ・介護度 1.9 (前年度 1.9) ・利用率の増とリハビリ関係の新たな加算算定により収入増。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職種毎の業務分担を見直し、広い視点で業務が行えるようになった。 ・リハビリテーションの考え方を再度整理し、「日常生活への落とし込み」「セルフケア」等について具体的な取り組みが行われた。
<p>敬寿</p>	<p>(利用率) 97.6% (前年) 98.3% 前年度比△0.7%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退所それぞれ 5 件は前年度並み。転倒骨折事故による入院で空床期間が発生し利用率に影響。申し込みから入所までのマニュアルを刷新した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額△6,801 千円 (前年比△4,840 千円) ・介護度は 2.4 (前年度 2.2) 重度者多く、中期では 3.1 であった。 ・介護度の上昇で収入は増加。人事異動等により人件費が大幅に増加。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化と重度化が顕著に見られ、変更申請も数多くあった。 ・不眠や体調不良の方に対し、継続的に主治医・ご家族と連携を図った。

本町楽寿	<p>(利用率) 91.5% (前年) 93.4% 前年度比△1.9%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて入院者や入れ替わり多く、利用率が低下。後期は新規利用者の情報収集を積極的に行い、早期の契約に繋げた。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 394 千円 (前年比△5,533 千円) ・介護度は 2.1 (前年度 2.3) ・利用率減少、介護度低下により収入は減少した。欠員補充で人件費増。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態や環境の変化に伴い、随時サービスの調整見直しを実施。また、サービス内容の多様化を図り、より柔軟なサービスを展開した。
千寿園	<p>(利用率) 98.5% (前年) 98.3% 前年度比 0.2%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春季以降は比較的入退所が少なく、適正に待機者確保及び管理が行えた。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 639 千円 (前年比△2,441 千円) ・収入は受託料の減額により減額。支出は給食費、旅費交通費が増額。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的機能や認知機能の低下に対する予防策（フレイル対策）を強化。 ・県外の他施設見学を通じ、軽費施設の重度化対策の重要性を再認識した。
居宅	<p>①【給付管理数】 929 件 (前年) 759 件</p> <p>② (予防件数) 257 件 (前年) 173 件</p> <p>③収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額△4,090 千円 (前年比△4,278 千円) ・管理件数の目標未達と 1 名増員による人件費が増減差額に影響。 <p>④実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季に多くの入院者あり、施設入所も多く、管理件数が目標に未達。
地域包括	<p>①実態把握 428 件 ②予防給付 987 件(内 委託 652 件)</p> <p>③総合事業 780 件(内 委託 312 件)</p> <p>④収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 2,395 千円 (前年比△1,107 千円) ・老健部分との按分経費が上昇し増減差額に影響あり。 <p>⑤実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人・家族や関係機関を通じ、介護やその他生活相談に対応。 ・一人暮らし及び高齢者世帯を訪問し、実情把握とサービスへの接続。 ・支援困難・虐待ケースについて、市と連携し支援を継続。 ・地域包括支援システム構築に向け、多様なアプローチによる活動継続。

(資料集)

【利用率】

①入所系

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	97.2	98.7	98.9	98.9	97.4	98.3	98.5	98.2	97.5	97.7	97.9	98.5	98.1	98.2
新光園	96.6	97.2	98.1	99.2	98.5	99.4	97.5	98.5	98.5	99.4	99.8	99.8	98.5	98.5
高田の郷	96.8	96.1	96.6	98.7	98.4	98.1	97.6	94.4	96.0	96.7	98.2	98.6	97.2	97.3
みずほ園	96.5	99.3	100.0	100.0	96.6	96.6	96.9	100.0	98.6	99.5	99.6	98.8	98.5	98.6

②在宅系(デイサービス・通所リハビリ)

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	77.9	74.4	76.1	78.9	76.1	74.6	79.9	78.1	74.4	72.4	71.6	70.0	75.4	81.0
新光園	83.8	88.4	90.2	95.3	94.7	95.0	94.7	94.8	94.1	92.7	96.7	91.9	92.7	90.0
高田の郷	79.5	81.8	78.9	79.9	86.6	86.3	84.4	82.4	79.6	78.4	82.2	74.3	81.2	82.0

③軽費・ケアハウス

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
千寿園	95.7	94.4	96.0	96.6	100.0	100.0	100.0	99.4	100.0	100.0	100.0	100.0	98.5	98.0
ケア上越	100.0	100.0	99.7	95.0	99.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.6	100.0	99.2	98.0
みのりの家	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④グループホーム

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
敬寿	100.0	99.2	100.0	100.0	99.6	95.5	89.2	97.4	100.0	100.0	93.9	96.8	97.6	99.0
なかよし寿	96.6	95.1	100.0	100.0	100.0	95.0	99.8	100.0	96.4	98.4	100.0	98.2	98.3	99.0
宝寿	100.0	99.6	98.1	100.0	94.3	100.0	100.0	100.0	94.6	97.5	100.0	100.0	98.7	99.0
百寿	100.0	100.0	100.0	100.0	96.2	97.4	100.0	100.0	100.0	99.5	100.0	100.0	99.4	99.0

⑤小規模多機能型居宅介護

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
光寿	91.7	84.8	83.6	94.8	100	99.3	93.4	97.7	100.0	97.0	92.0	93.0	93.9	90.0
本町楽寿	92.8	88.1	92.0	90.5	87.6	92.8	94.4	87.2	92.2	87.9	94.1	98.6	91.5	90.0

⑥居宅介護支援事業(介護給付管理数)

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	74	72	70	74	73	72	79	80	82	87	84	82		100

【要介護状況】

3月末日現在

事業所	要支援1.2(総合事業含む)	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均	前年度
いなほ園		5	5	24	53	48	4.0	3.9
新光園		2	5	18	21	33	4.0	4.0
高田の郷		9	23	32	21	8	2.9	2.9
みずほ園		0	1	2	16	10	4.2	4.0
いなほDS	12	17	23	9	10	6	2.1	2.0
新光園DS	22	19	26	22	9	5	2.0	1.9
通所リハビリ	28	17	22	24	9	2	1.9	1.9
千寿園	11	5	3					
CH上越	6	11	8	3				
みのりの家	2	4	1					
敬寿			5	3	1		2.6	2.4
なかよし寿		6	6	5	1		2.1	2.2
宝寿		2	4	2	1		2.2	2.2
百寿		3	9	5	1		2.2	2.3
光寿	5	7	4	5	1	2	2.2	2.3
本町楽寿	2	8	7	9	1		2.1	2.3

【リスク管理】

①事故発生状況

	いなほ園	新光園	高田の郷	みずほ園	いなほDS	新光園DS	高田の郷DC	千寿園	CH上越	みのりの家	敬寿	なかよし寿	宝寿	百寿	本町楽寿	光寿
死亡			1													
入院	4	3	3					1			1	1		1	1	
受診	11	9	1	2				4	1	1		1	2	6		1

②苦情受け付け状況

	いなほ園	新光園	高田の郷	みずほ園	いなほDS	新光園DS	高田の郷DC	千寿園	CH上越	みのりの家	敬寿	なかよし寿	宝寿	百寿	本町楽寿	光寿
ケア内容																1
職員対応	1	2	4													1
利用料				1												
制度																
その他		1					1									